



2026年6月1日発行
(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可
発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739
熊本市中央区段山本町4-1
Tel 096-353-6397(代)



よろこびあえる未来を

YMCAフィランソロピー協会



YMCAフィランソロピー協会は1995年に開設し、現在熊本県内の29の企業団体が共に社会貢献に取り組んでいます。

みんなのボランティア入門講座を開催

4月2日(木)と3日(金)、熊本YMCA本館/グローバルコミュニティセンターで、第31回「みんなのボランティア入門講座」を開催し、2日間あわせて4つの企業・団体から37名が参加しました。「特定非営利活動法人 自立生活センター ヒューマンネットワーク熊本」から、日常的に車いすで生活している講師を招き、食事介助体験と車いす体験、

グループ討議を実施しました。講座終了後には、「食事介助体験では、会話やリアクションの有無によって美味しさが違うように感じた」「相手の気持ちに寄り添うことの大切さを実感した」「コミュニケーションをしっかりとることで、相手に安心してもらえるようになった」といった自分自身の心境の変化などについて感想が寄せられました。



1 食事介助体験



介助者主導で無言のまま食事を進めるケースや、会話を交えながら相手のペースに合わせるケースなど、複数のパターンを体験しました。

2 車いす体験



車いすに乗る側、介助する側の両方を体験しました。実際に屋外に出た参加者たちが小さな段差や傾きに戸惑う場面がありました。

3 グループ討議



グループごとに意見交換を行い、体験プログラムを通して感じたことを共有。感想の発表も行われました。

参加企業

熊本トヨタ自動車株式会社



総務部総務部長
鎌田 公二さん

社内だけではできない環境での研修であり、福祉車両に力を入れている自社にとっても非常に有意義でした。今後も継続して参加したいと思います。

今後の予定

フィランソロピーセミナー&企業交流会

YMCAフィランソロピー協会加盟の企業のみならず、ご興味のある企業団体、個人の方もご参加いただけます。

7月17日(金)

セミナー

テーマ 深掘クロストーク: 外国籍人材と歩む、新しい企業のカたちと共生社会

時間 16:30~18:00

場 熊本YMCA本館/グローバルコミュニティセンター

企業交流会

時間 18:30~20:30

詳細は事務局にお問い合わせください。

問 YMCAフィランソロピー協会事務局(熊本YMCA)

Tel 096-353-6397

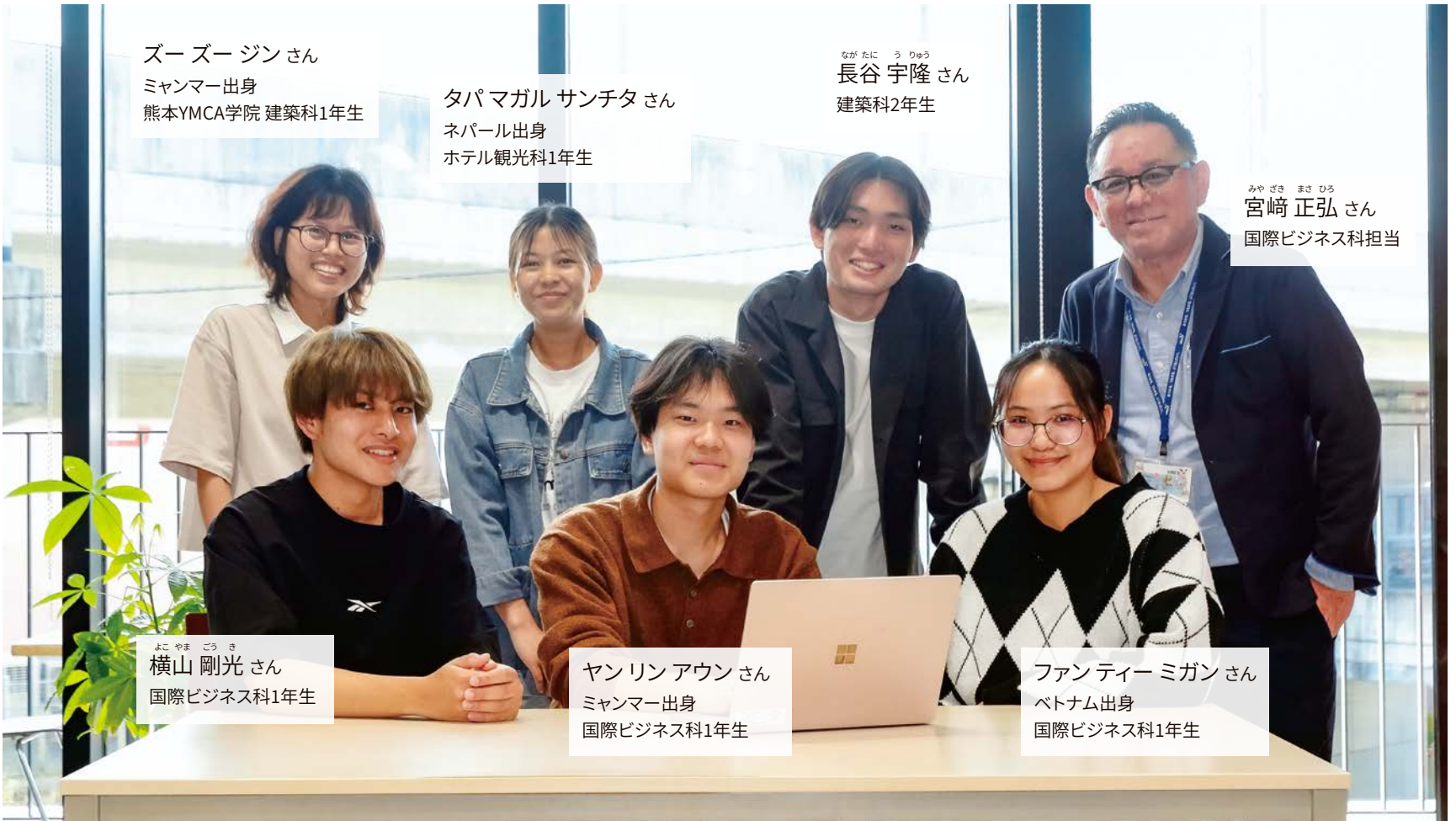
YMCAフィランソロピー協会 会員企業一覧

社会医療法人 愛育会 福田病院
九州産業交通ホールディングス株式会社
九州電力株式会社 熊本支店
九州労働金庫熊本本部
税理士法人 近代経営
株式会社熊本銀行
株式会社熊本県民テレビ
熊本第一信用金庫
熊本電気鉄道株式会社
熊本トヨタ自動車株式会社
光進建設株式会社
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
三和建設株式会社
株式会社城野印刷所
新規建設株式会社

株式会社スーブル
住商産業株式会社
株式会社TAKATA PAPER PRODUCTS
有限会社TAKITA
株式会社竹内工務店
株式会社テレビ熊本
東光ホールディングス株式会社
NTT西日本株式会社 熊本支店
株式会社肥後銀行
富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社
三菱オートリース株式会社 西日本本部熊本支店
有限会社ゆうしん
株式会社吉永産業
リコージャパン株式会社 熊本支社

ここから平和をつくる。

熊本YMCA学院 特別座談会



ズー ズー ジンさん
ミャンマー出身
熊本YMCA学院 建築科1年生

タパ マガル サンチタさん
ネパール出身
ホテル観光科1年生

ながたに うりゅう
長谷 宇隆さん
建築科2年生

みやざき まさひろ
宮崎 正弘さん
国際ビジネス科担当

よこやま ごうき
横山 剛光さん
国際ビジネス科1年生

ヤンリン アウンさん
ミャンマー出身
国際ビジネス科1年生

ファン ティー ミガンさん
ベトナム出身
国際ビジネス科1年生

違う国、同じ教室

宮崎 この春、専修学校熊本YMCA学院は、世界で活躍できる実践力を備えた人財を育成することを目指す「国際ビジネス科」を開設しました。同学科では5カ国から29名の留学生と1名の日本人学生が共に学んでいます。また、建築科には2学年あわせて4名、ホテル観光科には14名、子ども保育科には1名、健康スポーツ科には2名の留学生が在籍しています。今日は、熊本YMCA学院に通う様々な立場の学生の皆さんに話を伺います。今日参加してくれた留学生の皆さんはそれぞれ熊本、福岡、北九州のYMCAで日本語を学びました。初めに日本に来た理由を聞いてみたいと思います。

ミガン 私はベトナムから来ました。高校を卒業してから日本で就職する兄弟が多かったので、私も日本に行こうと決めました。もうひとつの理由は日本の教育がとてもいいと聞いたからです。日本人はまじめで、教える時はいつも頑張って教えてくれます。

ズー 私はコロナ禍の時から日本に行きたいと思っていました。ミャンマーは争いもあり、若者たちにとって危ないところ。海外に行った方がいいと周りも言っていました。日本に行っているミャンマー人が多かったので、私も来ようと思いました。

ヤン 私もミャンマー出身で、同じ理由で日本に来ました。日本を選んだきっかけはコロナの時に日本のアニメを見たことです。

サンチタ 私もネパールで日本のアニメや日本の美しさを見て、「こんな国に行きたい」と思いました。前はあまり勉強をしなかったけれど、日本に来たくて、勉強を頑張りました。日本に来ることができて、勉強は大切だと思いました。

宮崎 剛光さんは30人いる国際ビジネス科の学生の中で唯一の日本人だね。入学しようと思った理由は？

剛光 去年、YMCA学院のオープンキャンパスに3回参加しました。1回目は海外の人は参加してなかったんだけど、「次回は海外の人と会えると思うよ」と言われて、楽しそうだなって思ったんです。2回目にはミガンさんたちも参加して一緒にゲームもしました。いろんな国のいろんな文化を知ることができると

思って国際ビジネス科に入学しました。

宮崎 たいへんなことはある？

剛光 言葉については、「分かってもらえるように」と考えながら話したら伝わると思います。はじめは不安もあったけれど、仲良くなれたし、「苦労している」という感じじゃなくて、楽しいですね。ヤンやミガンたちと楽しく過ごしてます。放課後に一緒に熊本城に行ったりしたね。

ミガン 分からない言葉があったら、剛光くんが教えてくれます。

ヤン 剛光さん面白い。頼りにしてます。

つながることで見えたこと

宮崎 皆は1年生で、建築科の宇隆さんは2年生だね。YMCAでこういうことを経験したら楽しいってアドバイスはありますか？

宇隆 俺はボランティアの思い出がいっぱい。募金活動だったり、夏休みにはリーダーとして子どもたちと一緒にキャンプに行ったり、益城町のジョギングフェアでのボランティアも。なにより「ピースセミナー」に参加したら有意義な学校生活になると思います。

宮崎 宇隆さんは今年の夏に、世界各地から若者が集まって平和について考える「広島YMCAインターナショナル・ユースピースセミナー（ピースセミナー）」に参加したんだよね。

宇隆 はい。ピースセミナーに参加するまでは平和って自分には関係ない、壮大なものをイメージしていました。でも、いろいろな国の人と平和について語り合う中で、「もっと身近なところから平和ってつくれる」「一人ひとりのアクションが平和につながる」と思いました。

宮崎 他にも「まずは人の話を聞くことが大切」と感想を語ってくれた参加者や、YMCAのスローガンである「みつかる。つながる。よくなってくる。」の「つながる。」ってとても大切だと言ってくれた参加者もいたね。

宇隆 ピースセミナーでは、海外からの参加者となかなか話が伝わらなくて、めっちゃくちゃたいへんでした。それでも楽しかったけれど、今日、こうやってみんなで話せるのはもっと楽しい。平和をつくり出すには相手に寄り添うことが大



2025年度国際ナショナル・ユースピースセミナーの様子



国際ビジネス科の授業の様子



製図の授業に取り組むズーさん



ホテル観光科で学ぶサンチタさん

事だと思うから、そのためにはコミュニケーションが大切です。だから今は英語の勉強も頑張っています。

サンチタ 私はホテル観光科で日本人のクラスメイトの中で勉強しています。英語の授業の時間がとても楽しいです。ネパール人と日本人は英語の発音の癖が違う。そんなことでクラスメイトと一緒に笑っています。

ズー 私はまだ緊張して授業ではあまり話せないけれど、今日、こうやってみんなと話していて、楽しい気持ちです。

小さな平和を重ねて

宮崎 ズーさんは日本人学生と一緒に建築科1年生として勉強しているんだよね。

ズー 48人いる学生の中で、外国人は私と中国人、スリランカ人の3人。授業で分からない日本語がある時にクラスメイトに質問したら優しく教えてくれます。YMCAで友だちをいっぱいつくりたいと思っています。私は製図が大好き。将来は日本に就職して環境に優しく、住んでいる家族に温かい気持ちをあげる家をつくりたいです。

宇隆 できると思うよ。建築科の2年生にも中国人の留学生がいて、一生懸命勉強に取り組んでいて、すごいなと思っています。俺は卒業後は建築の施工管理の仕事を目指しています。現場では外国人の方もいると思うから、今からいろいろな国の人と交流できるのはいい刺激になっています。

サンチタ 私は日本のホテルで働きたい。日本で旅行に行った時、ホテルのスタッフの方がとっても親切にしてくれていたことが、今でも印象に残っています。私もそんな人になりたいです。

ヤン 私は子どもの時は兵士になりたいと思っていました。カッコいいと思っていました。その頃に思っていた兵士は国民を守る兵士でした。でも、今のミャンマーの兵士がそうだとは思えない。そんな兵士にはなりたくない。自分は困っている人を助けてあげられる人になりたいです。今の夢は社長。お金を稼いで、困っている人を援助したいです。

宮崎 ミャンマーは今、たいへんな状況だからね。宇隆さんがピースセミナーに参加して「平和は身近なところからつくれる」と感じたか聞いて、皆はどう思いましたか？

サンチタ 私にとっての平和は、まずは安全であることです。

ミガン ベトナムは昔から他の国からの支配を経験してきました。戦争で死んだ人がたくさんいる中で、そこから今の平和になるためにみんな頑張ったと思います。やっぱり相手のことを考えて、行動することが大切だと思っています。

宮崎 同じように日本にも戦争の歴史がある。教科書で知っていたその歴史を目の前に感じるのがピースセミナーだね。

宇隆 俺が一貫して思うのは平和をつくるには相手に寄り添うことが大切だということです。

ズー 私の国では実際に争いが起きています。それはやはり悪いこと。日本では、どこにいても安心。けれどミャンマーにいたころは、自分の家にいる時も心配な気持ちになっていました。相手のことを考えないのはだめ。小さな争いから大きなことになってしまいます。

ヤン 自分のやりたいことが、相手に認められるかどうか分からないからね。

剛光 国際ビジネス科では、立場が違って、お互いを理解しようと思ったら分かるんだなと実感しています。

ズー 平和にしたいなら、一人ひとりの考え方を柔軟にして協力することが必要です。自分のやったことが他の誰かにとって悪いことにならないように考えて行動したいと思っています。

宮崎 さきほど、ズーさんが「みんなと話して楽しい」と言ったように、こういう機会を通してできる小さな平和が重なって、大きな平和になっていくといいね。笑顔から何かが生まれると思っています。



2026年度広島YMCA国際ナショナル・ユースピースセミナーは8月5日(水)～8月9日(日)に開催予定です。

熊本YMCA本部事務局
Tel 096-353-6397

熊本YMCA学院の最新情報

Webサイト

Instagram



熊本YMCA 総主事
伊藤真太郎

マナ Vol.12

ひと玉無料

先日、家族で熊本市動植物園へ出かけました。春の光に誘われてゲートをくぐると、一枚の看板が目にとまりました。「こどもひと玉無料」——ひと玉？歩きながら、私の頭の中はその不思議な言葉でいっぱいになりました。最初に浮かんだのは「球根」です。春を待つあの茶色い塊か。はたまた、もっと大きなスイカのようなものか。あれこれと正解を探そうとする私の隣で、子どもたちは「何かなあ!」と、すでにどきどき・ワクワクが溢れています。そこへ職員の方が手招きしてくださいました。「どうぞ、こちらへ」。子

どもたちが喜んでついて行くと、手渡されたのは今朝摘みただという真っ赤な驚くほど大きな「いちご」でした。

「いちご?ふつう一粒(ひとつぶ)って言うんじゃない……」そんな私の小さな戸惑いなど、子どもたちには関係ありません。いちごを大きな口で頬張る。その瞬間、弾けるような笑顔が広がりました。

「甘い!」「おいしいね!」

その笑い声を聞きながら、私はなんだか可笑しくなっていました。「一粒」か「ひと玉」かなんて、どちらでも良かったのです。あの看板を書いた方はきっと、この立派ないちごを、子どもたちに贈る最高に輝く「宝物(玉)」だと誇りを持って呼んだのでしょう。子どもたちは大喜

びです。そこには、理屈抜き「言葉にならない豊かさ」がありました。

結局、私の予想した「球根」ではなく「いちご」でしたが、そこから受け取った喜びも豊かさ、あらかじめ備えられていたものと同じでした。ただ神が知る。その導きのままに、目の前の幸せを丸ごと面白がること。そんな「心のゆとり」の大切さを、一玉(?)のいちごが教えてくれた気がします。

目の前で笑う子どもたちの姿を眺めていると、いつの間にか私の口元からは好きな讚美歌が鼻歌となって溢れていました。甘いかおりに背中を押され、ぞうさんの待つところへ向かう私たちの足取りは、春のにおいに包まれて、自然とスキップになっていました。

R | E | P | O | R | T

キリスト教 熊本バンド結盟150周年 特別講演会を開催



熊本YMCA学院 須藤史朗

日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟150周年を記念する特別講演会が、3月20日(金)、熊本草葉町教会で開催されました。

熊本YMCAが事務局を務める実行委員会が主催。熊本バンドの歴史とその精神に思いを寄せる機会として、第一部講演会では、熊本大学名誉教授の岩井善太さんが「熊本バンドと熊本洋学校—ジェーンズの貢献—」と題して熊本洋学校における教育の

意義とジェーンズの指導が青年たちに与えた影響について解説。続いて、元同志社女子大学学長の小崎眞さんが「『組合教会』・『スピリチュアル・ユニオン(ユニオン)』・『信仰「協働態」』〜小崎弘道と新島襄のキリスト教(教会)理解を巡り〜」と題して講演し、両者の教会観や信仰理解の特色が紹介されました。講演後の茶話会ではルーテル学院中学・高等学校によるハンドベル演奏が披露され、会場は温かな雰囲気になりました。参加者同士の交流も深まり、熊本バンドの精神を次世代へと受け継ぐ意義をあらためて感じるひとときとなりました。



居場所 学習サポートの在り方を考える 意見交換会を開催

熊本YMCA
熊本四季子

熊本YMCA学院では様々な事情で学習機会が制限されている中高生・ユース世代を対象に、2025年5月に「放課後ベース熊本」を開設し、無料の学習支援の場を提供しています。この1年間の活動報告を兼ね、学習支援の在り方を考える場として、「中高生のリアルな声を聞き、学習サポートの在り方を考える意見交換会」を3月22日(日)、熊本YMCA本館／

グローバルコミュニティセンターで開催しました。

第1部では、放課後ベース熊本を利用する高校生3名が、自らの経験や想い、そして本当に必要だと感じている支援や居場所について語りました。高校生たちのすばらしい発表に、会場からは多くの質問や感想が出ました。第2部では、熊本市教育長の遠藤洋路さんらを招きクロストークを行いました。高校生の発表を受け、大人が今できることや、必要な連携について、それぞれの立場からの意見が出されました。



わたしのYMCAストーリー

人生が豊かに

YMCA本館／GCC運営委員・英会話プログラム会員
村田 紀美子



YMCAとの出会いは、英会話の受講生となったことですが、その後しばらく離れていました。画家として活動もしており、所属するグループの美術品展示を上通YMCA(当時)でさせていただいたことがきっかけで、英会話の受講再開とあわせてYMCAの様々な活動に関わるようになりました。2014年に学生のユースリーダーやYMCAスタッフと共にインドネシアを訪問したこと、その他、日本語を学ぶYMCAの学生との交流や、チャリティプログラムで絵付けのワークショップを行ったことなど、思い出もたくさんあります。

YMCAに関わる方々は、前向きで活発な方が多く、仲間にあうことが楽しく、人生が豊かになっていると思います。これからもYMCAの活動に関わることで、人と出会い、自分自身も共に成長できたらと願っています。

※このコラムではYMCAに関わる皆さんに「みつかる。つながる。よくなっていく。」「ポジティブネットのある豊かな社会」をテーマに寄稿をいただきます。

ワイズメンズクラブリレーコラム

ワイズメンズクラブの国際的活動

ワイズメンズクラブ国際協会
アジア太平洋地域会長
田上 正



私はテーマ「信念と愛を持って行動しよう!」、スローガン「YMCA、ユースと共に地域社会に貢献しよう!」を掲げ、韓国・インドを除く東アジア・オーストラリアに広がるワイズメンズクラブ国際協会アジア太平洋地域会長職を担っています。この地域に属する7区は、各地域YMCAと共に国際奉仕・地域奉仕活動に励んでいます。昨年8月、熊本開催「第31回アジア太平洋地域大会」に世界各地から集ったワイズメンやユース、熊本YMCAスタッフと学生、ユースボランティアを含めた約700人は、大会参加で培ったエネルギーを糧に各地で奉仕活動を展開しています。

※ワイズメンズクラブ国際協会は、YMCAをサポートする世界的な奉仕団体です。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／伊藤 眞太郎 編集／熊本YMCA ICR
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



▲
公式LINE

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2026年度基本聖句

ヨハネの手紙 - 3章18節
子たちよ、言葉や口先だけではなく、
行いをもって誠実に愛し合おう